



## 骨密度測定のご紹介

最近TVでいつのまにか骨折というコマーシャルを見かけます。ご存知のとおり骨粗鬆症が原因となって引き起こされます。整形外科の医院では骨密度測定を行い数値を見て診断、その後服薬などを行っていると思いますが、内科などの医院でも、服薬などの治療を行っているケースもあるのではないかと思います。整形の医院では骨密度測定器を設置してる施設がほとんどだと思いますが、それ以外の施設では導入していないのではないのでしょうか？骨粗鬆症の服薬治療を始めるタイミングとして、股関節頸部骨折や腰椎圧迫骨折など疾患があっただけで、骨粗鬆症と診断される場合は良いですが、それ以外は骨密度が分からなければ診断に苦慮することもあるでしょうし、服薬を始めるには骨粗鬆症のガイドラインのなかで以下の基準があります。

- ①大腿骨近位部や椎体の脆弱性骨折がある時
- ②大腿骨近位部や椎体以外の脆弱性骨折がありYAM(注1)が70%以上80%未満
- ③脆弱性骨折はないがYAMが70%以下または-2.5SD以下
- ④脆弱性骨折はなくYAMが70%以上80%未満で大腿骨近位部骨折の家族歴有
- ⑤脆弱性骨折はなくYAMが70%以上80%未満でFRAX®(骨折リスク診断ツール)(注2)の10年間の骨折確率が15%以上

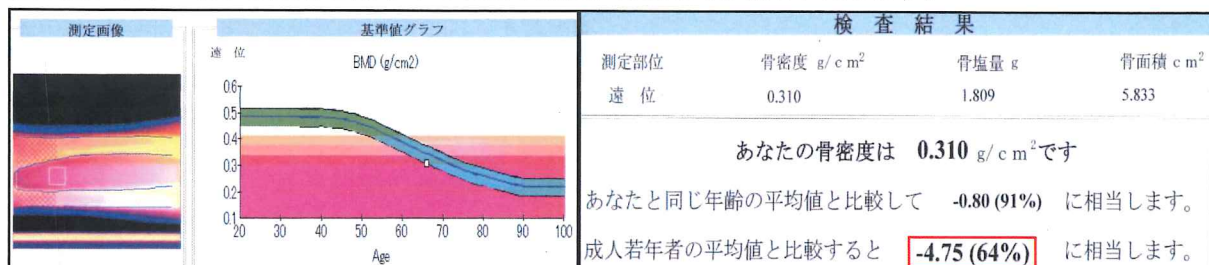
このように②～⑤に関しては骨密度測定が必要になります。当院の機器は、DEXA(注3)ですが前腕の測定になります。骨粗鬆症のガイドラインではDEXAでの椎体または股関節での測定が推奨されておりますが測定結果はほぼ近似するといわれております。また、腕での測定になりますので更衣の必要がなく比較的短時間にておこなえますので、外部からの依頼で行う検査向きだと思います。当院では、病院間連携にてご依頼いただければ検査をお受けいたしております。自施設にはないが、骨密度測定を行いたい場合はご利用していただければ幸いです。ご興味ございましたら当院地域医療福祉連携室0155-43-5020までご連絡ください。

(注1)YAMとは「Young Adult Mean」の略で若年成人平均値。20～44歳の健康な成人の骨密度の平均を100%として、現在の自分の骨密度が何%であるかを比較します。

(注2)インターネットにてご利用いただけます。

(注3)Dual Energy X-ray Absorptiometry(二重エネルギーエックス線吸収測定法)二種類のエネルギーのX線を利用して測定するものです。

測定後に以下の様に結果が出ますので、A4の用紙に印刷してお渡しいたします。



監修 放射線科技師長  
林 伸隆